

平成27年度第4回「墨田区子ども・子育て会議」 「乳幼児ワーキンググループ」議事要旨

日時：平成27年12月16日（水）午後6時35分～8時30分
会場：すみだリバーサイドホール イベントホール

次 第

1 開会

2 議題

議 題	資料
(1) 病児・病後児保育の実施について	資料1
(2) 小規模保育の認可について	資料2
(3) 3歳児以上の受け入れ不足に関する意見書について	資料3～6
(4) 子育てネットワークづくりについて	資料7～11
(5) その他	

3 閉会

配布資料

資料1	都立墨東病院における病児・病後児保育の実施について
資料2	小規模保育の認可にあたっての意見聴取について
資料3	曳舟地域における3歳児を受け入れる保育園不足について
資料4	墨田区の子どもの人口推計
資料5	28年4月入所の募集数（認可保育園）一次 28年4月（家庭的保育者・小規模保育所）定員・募集数 一次
資料6	3歳児定員の必要数について
資料7	子育て応援団（仮称）意見交換会 平成27年度第1回子育て支援ネットワーク化会議
資料8	平成27年度第1回子育て支援ネットワーク化会議記録
資料9	子育てひろば地域相談ネットワーク事業（ひろばねっと）イメージ図 子育て家庭をとりまく地域ネットワークのイメージ図
資料10	要保護児童対策地域協議会とは （児童虐待予防のための発見・対応マニュアル（関係機関用）〔墨田区〕より抜粋）
資料11	子育て支援ネットワークに関するグループワーク班分け表

出席者(敬称略)

委員

長田 朋久(横川さくら保育園長)
高嶋 景子(田園調布学園大学子ども未来学部子ども未来学科准教授)
西島 由美(にしじま小児科院長)
杉浦 浄澄(江東学園幼稚園副園長)
賀川 祐二(NPO 法人 病児保育を作る会代表理事)
伊丹 桂(文花子育てひろば施設長)
小林 佳香(公募)
佐藤 摩耶子(公募)
荘司 美幸(公募)
陳 晨(公募)
近藤 ゆき江(八広幼稚園長)
青塚 史子(八広保育園長)

< 欠席委員 >

本多 美絵子(両国幼稚園副園長)
新木 真理子(ひまわり保育園施設長)
貞松 成(株式会社 global bridge 代表取締役)
木村 律子(公募)
関 舞衣子(公募)

< 傍聴 >

なし

部課長出席者

石井 秀和(子ども・子育て支援担当部長) 小倉 孝弘(子育て支援課長) 杉崎 和洋(子ども課長) 村田 里美(子育て支援総合センター館長)

事務局出席者(検討チーム含む)

坂田・岩崎・浦辺・田村・戸村・遠藤・酒井

事務局(株)地域総合計画研究所)

佐々木

1 開会

委員	これより、乳幼児ワーキンググループ（以下、WG）を始める。
----	-------------------------------

2 議題

(1) 病児・病後児保育の実施について

事務局	（資料1について説明）
委員	墨東病院の「受入不可」に「感染症の疾患を有し」とあるが、子どもの病気は、ほぼ全て感染症である。定義等はどうなっているのか。医者が診断書を書いたが、実際には預かれなないとされると困る。もう少しファジーにするなどできないか。
事務局	具体的に詰めていない部分もあるため、再度、確認して今後、詰めていきたい。
委員	わらべみどり保育園の「受入児童」に「感染症の予後」とあるが、「予後」とは結果の意味のため病後だと思われる。また、「腫れもの」は今時あまり使わないだろう。
事務局	用語については再度、確認したい。
委員	この資料は変更の可能性がある。また、区報の文章にも気を付けた方がよい。
事務局	区報はここまでの詳細な掲載とはならない。
委員	事前登録をしないと使えないとのことだが、特に具合が悪くなくとも登録した方がよいのか。登録に費用はかかるのか。
事務局	病院の近くで利用する可能性のあるお子さんがいる方は、事前に登録した方が安心だろう。登録に費用はかからない。
委員	登録は、アレルギーや既往歴を把握するために必要である。
事務局	登録用紙では、予防接種等を書いてもらう。
委員	保育園の子どもが全員登録ではなく、知っている方だけが登録して利用できるものかと考えていた。周知はしないといけない。
委員	周知は色々とするだろうし、興味のある人は見るだろう。
委員	墨東病院は駅からの距離も料金も魅力的であるため、登録はしておきたい。
委員	そうした反面、子どもが病気の時くらい、母親が側にいてあげてほしいと考える。

(2) 小規模保育の認可について

事務局	（資料2について説明）
委員	じょうえん第1保育園は墨田区にあるのか。
事務局	草加市に第1があり、第2・3は仮称である。なお、東向島は4月の案内に掲載しているが、じょうえん第2・3は最近決まったため案内に掲載がなく、一次募集の選考で漏れた方が二次募集に申込される際、追加で掲載するものである。
委員	次の議題の曳舟駅前の3歳児の問題に関係するが、小規模保育ばかり作ると50人単位で入れない状況になってしまう。また、部屋が別れていると園は別扱いになるのか。調理室も2つとなるのか。
事務局	規定では別の施設の位置づけとなり、それぞれ園長を置くなど、独立した園となる。調理室も2つ設けることとなる。

委員	周りには0歳で入れない家庭がいるし、働きたい母親もいるため、小規模保育が増えていくのはありがたい。
----	---

(3) 3歳以上の受け入れ不足に関する意見書について

事務局	(資料3~6について説明)
委員	一応、数字上では足りている形であるのか。
事務局	数字上で足りているだけであって、その地域で歩いていける範囲では少ない状況である。4月に東向島で新規園が1園オープンし、曳舟の駅前で2園がオープンするため、東向島の2歳児が8名、曳舟で18名、合計26名増えるが、1年後の4月には少なくとも26名以上の3歳児枠を新たに設けないと、3歳児の待機が発生していく。
委員	資料にあるベネッセ菊川北は11人であるが、新規開園のため来年から0人である。
事務局	昨年度は520名の定員増を図り、今年度は合計で今のところ220~230人の定員増の予定である。さらに29年4月は、少なくとも300人くらいの定員増で進めている。
委員	3歳児は枠として入れるが、4歳、5歳が少ない。そうすると、いずれ転園しなければいけないこともある。だいたいどの園も3~5歳の定員は横並びで、4歳児から申し込むと辞めるとか引っ越しとかしない限り入る枠がない。3歳児が一番枠があるため、そこで入れておかないと4歳からは入れない。
事務局	1~2年前に転園ということで、フルで抑えてある園を希望する方もいるし、これ以外でも違う自治体からの転入ということで年齢に関係なく新規の需要もある。人口増加以外でも目に見えない増加があると認識している。募集時にも、自分が住んでいる自治体では保育園がいっぱいで入れない、その中で墨田区は待機児童数も減っているのに、墨田区の方が入りやすいという思いや希望もあって引っ越してきたが、墨田区でも厳しくフルタイムでも入れないという状況で、がっかりされている方もいることがあった。
委員	江東橋保育園分園の7人を忘れていないか。改めて別枠で入っているのか。
事務局	江東橋分園は本園にそのまま4歳に上がるため、別枠で入っている。
委員	保育コンシェルジュについて、自分も相談に行ったが、親身になって相談に乗ってくれて参考になった。その時に、去年は何点の人は入れたと点数を教えてくれた。他の自治体だと、何点の人は入れたというボーダーラインをホームページで公開されている。そうすると目安となって分かりやすいと思うが、墨田区はそういうのがないので、ある程度の目安がもう少しオープンになっていれば、少しは不安などが解消されるのではないかと。例えば、去年この保育園は44点の人しか入れていないが、自分は40点しかないから少し点数を上げるために、もう少し会社でフルタイムへの交渉しようなどと色々対策が立てられる。この方がコンシェルジュにもう少し相談に行っていたら、もっと違う意見もあったのではないかと。
事務局	今、職員が3名いて、いずれも公立の保育園を退職した職員を非常勤として採用している。1階の相談窓口で毎週月曜日と木曜日の週2回、窓口を開き、それ以外は区役所4階のカウンターで行っている。コンシェルジュは要望や状況を聞いた上で案内をしている。利用者は自身の苦勞や状況を話すことによって、気持ちや和らぐという声もある。一部の園で点数がかなり低い場合でも、極端な場合、両親共に求職状態にあっても入れているところはクラス年齢によってある。そうしたところが公開したことによって、その方の生活状況がどうなのかということが公になってしまう。趣旨は承知しているため、今後検討させていただきたい。

委員	最低入園指数を数字だけの公表でもそんなに個人情報には触れない気がしている。また、過去3年間やれば、傾向もある程度つかめるため、いい案かと思って聞いていたが、公表は可能なのか。
事務局	過去3年の間に選考基準を見直しているため、単純に比較はできないと考えるが、その辺を含めて検討させていただく。
委員	その辺りは注意書きを添えてはどうか。
委員	毎年どのような方が応募されるかというのは、蓋を開けてみないとわからないが、参考程度として数字が公表されていることが、保護者にとって第1希望に書くのか第5希望に書くのかの目安として一助になると考える。
委員	最近3歳まで育児休暇が取れる大手企業も増えてきて、3歳まで育児休業を取って、3歳から保育園に預けてフルタイムで復帰したいというお母さんもいる。そういうお母さんが、墨田区の募集だと今年1122人募集しているが、3歳の募集は112人で10%、0歳と1歳は410人と390人で70%である。この数字だけ見てしまうと、0歳か1歳からしか入れないのかとイメージするだろう。そのことを相談したら、ポイントについてアドバイスされたが、1つの参考として、0歳か1歳、1歳くらいをターゲットに復帰しようと会社で話が出来た。そのアドバイスがなければ、3歳から復帰しようと思っていたら多分路頭に迷ってしまっていたと思う。そういう意味で、多少情報があると、お母さんたちは助かるのではないか。
委員	情報提供について検討していくのも大事だと思うが、やはり育児休業を長く取れるようになった時の受け皿を用意しておく態勢作りもしていけないといけない。実際、乳幼児WGでも1歳まできちんと育休を取って復職出来るように、1歳児の枠を増やすことは検討した。3歳児枠が、数字上では確保されているが、実際に厳しい地域もある。たまたまこの方の意見で曳舟地域があったが、墨田区の中でも同じような状況にある地域はあるのか。区として把握されているのか。あるとすれば、そういう地域に新設して増やしていく保育園の中で、そういった枠を設ける対応はとれるのかどうかという検討をしていただけるとよい。
事務局	小規模保育は2歳で終わってしまうが、特にその2施設だけでは全部受け入れが出来ないため、違う施設で3歳児枠の新たな枠を設けることも難しい状況というのは認識しており、大きな課題と捉えている。
委員	コンシェルジュは私も利用したが、点数についても色々言ってくれ、例えば両国の子育てひろばで定期保育の一時的に預かってくれると案内してくれた。NPOや無認可の保育園まで情報として教えてくれて、いろいろとアドバイスしてくれた。コンシェルジュの制度で墨田区に住んでいて良かったと思った。多分、お母さん次第ではもっと探せるし、もっと教えてもらえると思う。点数や現時点で空いている園の状況も聞ける。そういうことを聞けるということが分かればよい。点数をネット上で公表するというのは個人情報で、特に保育園は結構枠が狭く、途中で入って来た子で点数が低いということを知ると、お母さんたちには分かってしまう状況にあると思うが、自分の点数が分かる状況であればよい。
委員	4月1日入園が一番競っている時の最低入園指数を年齢毎に公表することは、それほど個人情報に影響はないのではないかと。毎年、年度途中で入って来る方の数値を出すのではなく、4月入所の時だけで3年間の最低指数の公表だったら、それほど問題はないのではないかと。
委員	4歳や5歳は1人か2人で、そこに途中で入って来た子の点数は分かるだろう。直接的にネットで分かるように出すのは、私自身がもしその一人だったとしたら、やはり少し不安で

	ある。母親間でも情報は結構広がる。
委員	0~2歳だけに限定するという方法もある。その辺の配慮は必要だろう。
委員	土地が空いたら、区有地で保育園にするようなドラスティックな考えはないのか。
事務局	現況は3件、区の土地を無償で貸して事業者を公募してやっており、開発に伴って誘致するというのが全体の流れである。待機児数を減らすためには施設を作る必要があり、民間が自分で物件を見つけてきたり、土地を買って作ることもあるが、区も公有地を区有地や都営地、国有地などと使い分けて行っている。
委員	園庭のない保育園をこれ以上作るのとは違うのではないかと。園庭がなく離れた公園に行くとすると、散歩車を押していかなければならない。質の問題というのは勉強を教えることよりも、園庭で遊び回れる保育園を作ってあげることではないかと。
事務局	実際、ほとんどの新規園は園庭がない状況であるが、新制度のプランをこの5年間で実現しようと、現在調整中である。
委員	この意見の方にはどのように回答をするのか。
事務局	区の全体的な保育定員を拡大するとともに、3歳児からの要望があった件については、民間事業者を誘導したいという回答を考えている。墨田区の現状と方向性を示す中で、委員からの意見があったことを伝える予定である。
委員	現状で定数は足りているという説明か。
事務局	現状で北部と南部の大きな括りの中では合っているが、地域によって供給が少ない状況は認識している。
委員	どこの園が空いていて、申し込めば入れるという回答をするのか。
事務局	そういう回答はするつもりはないが、区も認可の新規園について、曳舟や東向島近辺のエリアを通して、提案があった3歳児からの専用の受け皿について検討している。この中で、提案があれば区が受ける予定であるということをお返答しようと考えている。区として出来る範囲で頑張っているという内容である。
委員	この方の立場になって考えると、2歳で移れるかどうかはわからないところに、さらに2歳児枠を18人も作るということではないかと、そこに対して頑張っているという説明が通じるのかどうかはわからない。どこか空いている、少し遠くでも行ってくださいとした方が、まだいいのではないかと。2歳までしか入れないと言われる方が辛いのではないかと。
事務局	区としても0歳~2歳の現況として待機がいる中で、小規模保育によって、0歳~1歳の待機を減らす中で、3歳児の受け皿も並行して進めなければならないという認識である。
委員	0歳児で入ってしまわないと上がれないから、0歳児で入ろうと思う人数を発掘することにならないか。
事務局	0歳児と1歳児の枠の段差があれば、1歳からの受け皿も広がるが、0歳からであっても1歳からであっても3歳からであっても入れるのが理想である。その中で、行政側としていかに効率的に需要にマッチした供給をするかというのが課題である。少し余裕を持って供給しないと、要望のある年齢層や時期で入れるということが難しい状況であり、今後とも計画を前倒しして供給するようなことを検討する状況にある。
委員	意見書に対してどう回答するのか。努力しているという答えよりも、遠いがここはどうでしょうというように、今の話のことを是非その人に伝えてほしい。

事務局	この方の今後の意向や状況もあるが、そういうことがあるということも案内したい。
委員	コンシェルジュに相談に来ていれば、上の子が幼稚園ではなくちゃんと保育園に入っていれば、この人の点数がもっと高くなる。第一子が幼稚園と保育園に入っていない状況なので、保育園に入りたいのであれば、まず上の子も保育園に入れてあげる。そうすると、7ポイントもらえる。そういうことも教えてあげないと、この人は納得しないのではないかと不安だけを残して「こうしました」ではなくて、「こういう方法があるのがどうですか」と言わないといけない。この人の場合、第一子の子を幼稚園ではなく、まず保育園に入れて、別々の保育園にすると7ポイントもらえる。下の子が入りたいところを選定する時に、上の子もそこに先に入って、特に来年は年中になると多分、点数が低くても入れるはずである。近くの園で、まず4歳児で入れるところに入れてあげるとというのが一つの作戦なのではないか。それもひとつ提案したらいいのではないかと。
委員	今年から兄弟関係で7ポイントもらえるようになり、一つの方策かと思う。丁寧に区から回答し、会議でもこのような問題提起や議論があったと伝えていただければ有り難い。

(4)子育てネットワークづくりについて

事務局	(資料7~11について説明)
委員	2月の参加者は何人だったか。また、8月の32名は32団体ということか。
事務局	2月は約30団体で44名の参加者、8月は約22~23団体で32名の参加者であった。8月はすみだkomachiさんに協力していただいたが、行政の限界も感じたところである。
委員	この会は、支援している側の団体同士のつながりの場や意見交換の共有の場で、そのような緩やかなつながりが大事である。このようなスタイルで行うのが重要だろう。
委員	ここで目指すのは要保護児童対策のようなネットワークというよりは、子育てをしている人たちがより良い子育てができるネットワークをどう作れるかということだろう。本日は委員から意見を出してもらい、課題と解決策についてグループ討議を考えていたが、時間の関係で難しい。
委員	緩やかなネットワークの形成は必要だろうし、時間はかかる。顔が見える関係が大事なポイントで、地域の家庭同士で安心感を持って子どもを育てることにつながるだろう。要保護児童対策のようなネットワークよりは、すみだkomachiさんがやっているようなことが含まれているのだろう。今後、民間でどういうことやものがあるのか、何があったら良いか話合っていければと思う。
委員	作ってくれと言って作ってもらうネットワークではなく、あったらいいなと思うことがいつの間にかできていたという仕組みやきっかけがWGでできればよい。

(5)その他

事務局	次回の乳幼児WGは決まり次第、連絡する。次回の親会議は1月28日(木)である。次回の乳幼児WGは親会議の前に開催し、ネットワークの検討を行いたい。
委員	協同的学びプロジェクトにおいて、1月20日と28日に公開保育を行う。また、4園の合同発表会を2月29日(月)に行う。

以上